

第6回 研修報告

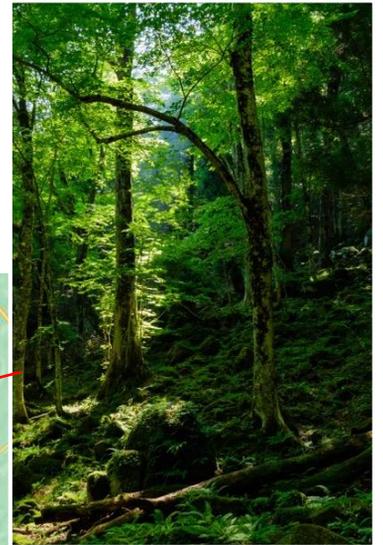
2022年11月10日(木)～11日(金)

歴史ある町並みと地域の森を歩く

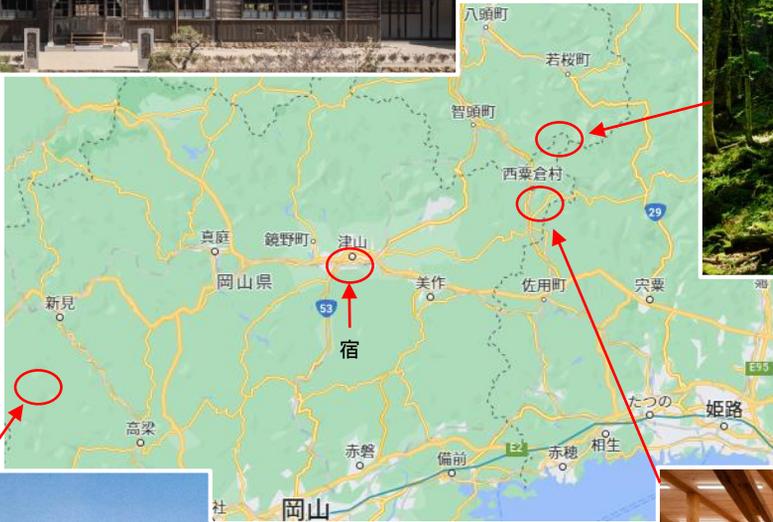
紅殻の町並み「吹屋」と「若杉天然林」

歴史的に重要な建造物が失われつつある今
伝統的建造物群と地域の森林資源を研修します

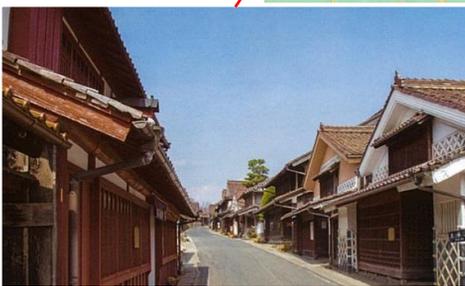
県指定重要文化財 旧吹屋小学校



若杉天然林



吹屋の街並み



あわくら会館



江戸時代、吹屋地区は銅鉾山として栄え、標高500mの山中にあります。閉山と共に衰退しますが、銅の製造過程で産出する酸化鉄を活かし、紅色染料の「ベンガラ」を製造しました。その品質が極めて良質であった為、京都を中心に建築物の木部塗装や陶磁器・漆器に使われ、人気があったようです。

当時の街並みは今も残り、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されました。(文化庁 1977年)

今回は、この街並みと、建築に使われた木材を供給した、地域の森林を研修します。

岡山県高梁市にある伝統的建築物群「吹屋」と、西粟倉村の「若杉天然林」を訪ね地域に木材を供給した森林を研修しました。西粟倉村役場は地域の木材を90%以上使用しました。今でも地域の森林は、木材を供給し続けています。



・旧吹屋小学校

1873年に開校し、2012年まで現役の小学校として利用されました。その後、7年の歳月を掛けて保存修理工事が行われ岡山県の重要文化財に指定されています。当日は、この小学校を卒業したガイドさんによる、熱の入った説明を聞くことができました。



・旧吹屋小学校内部（六間廊下）

職員室や教室とつながる「廊下」。いつも生徒が雑巾がけをして、大切にしてきたそうです。ガイドさんがトラス構造について、大橋先生に説明中。



・吹屋の町並み（ジャパンレッド発祥の地）

江戸時代に銅鉦山で栄えた町は、その後の閉山と共に衰退します。残った人達は副産物の酸化鉄を使って、良質な弁柄を生産することで、町は活気を取り戻しました。当時の町並みは今も残っており、重要伝統的建造物群として注目を集めています。



・若杉天然林（自然探求路）

森林浴の森、日本百選に選ばれた3kmの散策路を歩きます。岡山大学から、中村先生にも参加頂きました。多彩な樹種と巨木を見ることが出来ますが、意外とハード。



・西粟倉村役場（あわくら会館）

環境モデル都市に採択された西粟倉村は、他の2町（下川町・栲原町）と同様に森林資源に注目します。役場の建替えに伴い、村民交流の場として「あわくら会館」を併設しました。使用した木材の97%が村産材とのこと。若者の移住にも注力し、社会増減がプラスになったそうです。